



第12回大会を終えて

福井大学フォーミュラカー製作プロジェクト

University of Fukui Formula Car Racing Club

<http://fukui-frc.jimdo.com/>



Presentation プレゼンテーション

マシン名: **FRC14**

私はマシンを所有する人が楽しめるクルマにしたいという思いから、コンセプトを「Pleasure」としました。

私達の考える「Pleasure」とは、「ドライバーがレーシングカーを「所有する喜び」と「意のままに操る喜び」、「ランニングコスト」の3点です。これらにマシンに反映させるべく、走る姿を見た人々を魅了する「美しさ」、ドライバーを虜にするレーシングカーとしての「快適性」、レーシングカーに乗り続けるための「安心・経済性」といった3つの要素から「Pleasure」を追求しました。

まず、快適といった観点からフレームの高剛性化を図りました。サスペンションからの入力による最大応力を軽減することで、ねじりによるジオメトリ変化を抑制しています。また、サスペンションでは、ばね下重量の軽量化をしました。これにより、路面追従性の向上に貢献しています。次に、安心・経済性といった観点から燃費の向上を図りました。ECUにMoTeCを採用したことで燃料マップの適正化とともに、エンデュランスではアクセルオフ時に燃料カットするように設定できるようになりました。また、冷却性能の向上も図り、大会本番の出走待ちにも耐えられるようにラジエーターを拡大しました。さらに、美しさという観点からレーシングカーらしい排気音を作り出すべくマフラーの自作にも挑んでいます。

Participation report 参戦レポート

今年度は総合20位入りを目標に大会に挑みました。日程管理の甘さや主力メンバー数名が途中で退部したこともあり、シェイクダウンが遅れて6月後半となってしまいました。今年度はエンジンを新調したためトラブルが多くなると考えていましたが、初走行時のクラッチトラブル以外は大きなトラブルに遭うことなく試走を重ねることができました。そのため、セッティングや部品の改良に時間を割くことができ、昨年度よりも良い体制で大会の日を迎えました。

大会初日はデザイン審査、そして2日目は車検、コストとプレゼンテーション審査といった流れでした。今年度は全種目に出場するには車検は一度で合格する必要がありました。その準備を優先的に進めてきたことで、技術車検や各試験を一回で合格することができました。しかし、車検を優先したあまり静的審査の作りこみが不足してしまい目標には大きく届かず、不甲斐なさを感じました。

また、3日目の動的種目についてはしっかり準備できたにもかかわらず、思うような得点にはならずマシンの完成度が他のチームから遅れをとっていることを痛感しました。また、4日目のエンデュランスではエンジントラブルにより18周目でリタイヤとなり、あともう少しで完走できただけに悔いの残る結果でした。総合順位は目標には届かず39位という結果でした。この悔しさを晴らすべく次の大会に挑みます。

最後にチームを応援、支援してくださった大学関係者の方々、スポンサーの方々にこの場を借りて御礼を申し上げます。

今回の総合結果・部門賞

- 総合39位
- スポーツマンシップ賞

Profile チーム紹介・今までの活動

福井大学フォーミュラカー製作プロジェクトは2005年に発足し、今大会で9回目の参戦となります。本プロジェクトでは、授業の場では経験することのできない経験を通して、エンジニアとしての総合的なスキルの向上をめざしております。今大会は総合20位以内を目標に活動してきました。

Team-member チームメンバー

高倉 涼 (CP)

新谷 真功 (FA)、川崎 孝俊 (FA)、高見 知秀、小竹 将貴、吉村 駿吾、藤井 翔梧、種田 和弘、向井 涼、山口 和哉、林 克洋、南部 雅貴、鎌田 チヒロ、日下部 杏、塚田 真司、今井 達也、佐藤 竜一、山本 拓哉、小原 怜大

Sponsors スポンサーリスト

ウエストレーシングカーズ、宇野歯車工業、A&M貿易、AVO/モータックジャパン、NTN、江沼チェーン製作所、F.C.C.、キノクニエンタープライズ、協和工業、クイックアート、草島ラジエーター工業所、桑原バイクワークス、神戸製鋼所、スズキ、ソリッドワークスジャパンKK、タイヤガーデン福井、タカサーキット、テクノイル・ジャボン、日信工業、VSN、ハイレックスコーポレーション、福井大学工学部先端科学技術育成センター、プレニ-技研、丸五ゴム工業、ミスミグループ本社、吉岡幸、レイズ、S-GRID、アキラックス、住友電装、福井商工会議所、深井製作所